



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

家兔実験舌癌モデルを用いた免疫療法の抗腫瘍効果 増強に関する実験的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 立松, 憲親 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/448

はしがき

現在の癌免疫療法は Biological response modifiers (BRM)製剤による生体防御機構活性化療法が主体をなし、外科手術後に残存した腫瘍細胞や播種・転移癌細胞の根絶、あるいは手術不能例に対して宿主側の免疫能の向上を目的として投与される非特異的免疫療法剤の投与法には確立された方法がいまだに見当たらないのが現状である。われわれは家兎 VX2 実験舌癌に対して各種 BRM, 特に Lentinan, Muramyl dipeptide (MDP)による抗腫瘍効果について検討を行ってきた。今回直接細胞障害性を持たず純粋な生体防御賦活剤であり、その活性本体が明確にされている BRM 製剤である Lentinan を中心として、低用量の化学療法剤との併用療法により、非特異的免疫療法単独では活性化されにくい免疫学的過程を補足することにより、抗腫瘍効果の増強が得られる投与法を検討する。

研究組織

研究代表者:立松憲親(岐阜大学・医学部・教授)

研究分担者:奥富 直(岐阜大学・医学部・助教授)

研究分担者:市原秀記(岐阜大学・医学部附属病院・講師)

研究分担者:安田 聡(岐阜大学・医学部附属病院・助手)

研究分担者:横山恭子(岐阜大学・医学部附属病院・医員)

研究経費

平成 9 年度 600 千円

平成 10 年度 500 千円

平成 11 年度 500 千円

平成 12 年度 500 千円

計 2, 100 千円